

平成 21 年度 「巴会関西支部総会」 見学会

H21.07.02
関西支部長
掛田 健二

6 月 27 日 (土) 14:00 松下幸之助歴史館 見学

パナソニックミュージアム松下幸之助歴史館は、京阪電鉄西三荘駅に隣接し、パナソニック(株)本社・工場の一角にある。22 名参加。特別展『苦境を超えて：かつてない難局は、かつてない発展の基礎となる』『難局に処する心がまえ』を開催しており、最近の巨大不況に合致した回顧展であった。パナソニックの発展を見ると、松下幸之助の本質は USA の墓銘碑にあった「自分より優れた人を、自分の周囲に結集させた人物」の歴史と痛感する。PHP 研究所や松下政経塾の創設に見られる、世直し・人づくりを根底に持っており、京セラ創業者稲盛氏の京都賞もしかり。京都や大阪に新規創業や社会貢献の伝統を感じる。それとともに、難局は人と企業を鍛え、伸ばすチャンスであり、それに耐えたものだけが生き延びられる冷徹な企業現場とその修羅場を、退職まで一時的にせよ歩いてきた、という感傷をもった。

大阪モノレールに乗換えて宇野辺駅下車、総会が開催されるパナソニックリゾート大阪に向かった。

6 月 28 日 (日) 10:00 国立民族学博物館(万博公園内) 見学

13 名参加。大阪モノレール宇野辺駅から 1 駅の万博記念公園駅に向かう。大阪万博以来久方ぶりに万博公園に入場し、太陽の塔を懐かしく見た人も多かった。国立民族学博物館に初入場の人が大半で、65 歳以上は割引がある。所有する民族用具は博物館の研究者が現地に住込んで収集し、民俗学の確立のための文明研究をするのが原則であり、世界各地の民族用具の収集数と種類では世界一である。季刊の学術研究書『民俗学』を発刊し、世界から研究書を受け入れ・派遣している。

イースター島のモアイ像や外洋性カヌーに触ったり、ガムラン楽器を少し叩いて音を出したり、民芸の椅子やベッドに座ったり寝たり。見るだけでなく、許可された展示品に触れる楽しさが、この博物館にはある。アフリカの展示が大きく変わり、仮面や盾といった伝統的な祭礼用具の展示を少なくして、現代アフリカの生活観溢れる店舗・衣服・民族運動と圧政・解放の公平な展示が増加している。M45 の頭師さんは彫刻を趣味としており、参考になるものが一杯だと興奮気味。一回りして 2 時間弱。平坦地を歩くのだが、新知識が多くて腰が痛くなり、全員グロッキー気味。昼食は付属のレストランでインドネシアとタイの焼飯を食し、海外出張を懐かしむ人もおられた。

現地解散後は、日本庭園でアジサイと蓮の咲き始めを見たり、緑陰休憩した人、万博公園のフリーマーケットで買い物する人もおり、疲れたが楽しい一日であった。